



まえかわ・しゅういち

Profile 全国規模コンテスト入賞多数。個展はこれまで12回開催。日本自然科学写真協会会員。写団楽師主宰。町田市在住。

樹木彩響

前川彰一 (東京) <P9~13>

散歩道を歩き、感じたままにカメラを向ける。時には山道を、自然の風を体いっぱいを感じながらひたすら歩く。そして大樹や小さな木を見つけては気ままに写す。自然の織り成す空気は、朝日や夕日の光に照らされた時、それは素晴らしい輝きを見せてくれる。

そのような繰り返しの中で木のある風景を「樹木彩響」としてまとめた。これからも「美しいものをより美しく」をモットーに四季を通して何度も足を運び、自然の中での宝さがしを続けていこう。

写真展●10月29日~11月4日
東京・富士フォトサロン
写真集●樹木彩響 (文一総合出版)



にしむら・じゅんいち

Profile 1942年、大阪府生まれ。93年より写真を始める。2000、2004年に個展を開催。東京都世田谷区在住。

花はな華

西村順子 (東京) <P14~15>

私の被写体の原風景は、生まれ育った実家の庭。ヤマザクラ、モクレン、ツツジ、アジサイなど、四季折々に咲く自然がありました。

学生時代は油絵を、その後墨彩画を趣味として、主に花を描いてきました。撮影に際しては、モネ、ルノアールら印象派絵画をイメージして、心あたた

まるファンタスティックな表現を心がけております。7月には京セラ・コンタックスサロン銀座で個展を開催。花や木の葉の幻想的な作品44点でギャラリーを満たしました。

いずれもソフトレンズやソフトフィルターを使わず、雨に濡れたレンズや、前ボケ、後ボケ、露出オーバーなどを用いて、ソフトな効果を心がけました。



むらおか・ひでお

Profile 日本写真協会、日本写真作家協会会員。写真展・写真集多数。川崎市在住。

ベニス

村岡秀男 (神奈川) <P16~18>

華麗な装飾を凝らした寺院と今にも運河の中に崩れ落ちそうな家々。広場や表通りは終日観光客で賑わっているが、迷宮のような路地の奥には生活のおいが漂っている。

とくに魚市場の男たちの顔がいい。市場から対岸に渡るゴンドラは市民の

足となっているので4ユーロ (ほぼ50円) と割安だ。

犬をかかえて買い物にくる人々や通学に利用する子どもたち。ときには尼僧も乗っていたりする。ベニスは不思議なコントラストを見せてくれる街である。